令和４年度第２回習志野市子ども・子育て会議　会議録

１　日　　時　　令和５年１月２６日（木）午後５時から午後６時２５分

２　開催場所　　市庁舎５階委員会室

３　出 席 者　（敬称略）

【会　長】　千葉経済大学短期大学部　上村 麻郁

【委　員】　千葉大学教育学部　真鍋 健
習志野市立こども園　荒井 喜美江
習志野市私立幼稚園・認定こども園協会（事業者代表）　飯生 和美
私立保育園　川端 小夜子
習志野市立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会　皆川　直哉
習志野市保育所・こども園保護者会連絡会　黒木 秀一
習志野市学童保育連絡協議会　桃原 薫
習志野市ＰＴＡ連絡協議会　江口 麻衣子
習志野市私立幼稚園・認定こども園協会（保護者代表）前田 ちはる
公募委員　横山 智子
習志野市小中学校長会　荒井 英治
習志野市民生委員・児童委員協議会　福井 りえ
習志野商工会議所　三代川 雅信

＜欠席委員１名＞

【職　員】　こども部　　部長　小平 修、次長　相澤 慶一
こども保育課　課長　佐久間 心之、主幹　家弓 樹也、
主幹　松田 裕美、係長　石川 由美、
係長　平岡 真由美
子育て支援課　課長　奥井 菜摘子
児童育成課　　課長　仁王 俊明、主幹　上野 智子
ひまわり発達相談センター　主任指導員　清水 郁乃
健康支援課　　主幹　児玉 紀久子、係長　堂前 幸子
指導課　　指導主事　田中 紀代美、指導主事　大門 賢次
社会教育課　　課長　越川 智子、係長　山田 展子

【事務局】　こども政策課　課長　齊藤　洋介、主幹　新井 理香
係長　石橋 寛、副主査　鈴木 真理子、
副主査　清水 隆之

【傍聴人】　３名

４　議題

第１　会議の公開

第２　会議録の作成等

第３　会議録署名委員の指名

第４　協議

（１）習志野市子ども・子育て支援事業の中間見直しについて

第５　その他（事務連絡等）

５　会議資料

資料１　習志野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しに係るご意見等に対する回答及び見直し案の修正

資料２　習志野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

６　議事内容

第１　会議の公開

原則公開としたうえで、内容により公開・非公開の判断が必要となった際は、その都度、議決することに決定した。

第２　会議録の作成等

要点筆記とし、会議名・開催日時・開催場所・出席者氏名・審議事項・会議内容・発言委員名及び所管課名を記載のうえ、市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて公表することを決定した。

第３　会議録署名委員の指名

会議録署名委員に、飯生 和美 委員及び川端 小夜子 委員を指名し、決定した。

第４　協議

（１）習志野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

【上村 麻郁会長】

前回会議を傍聴した特別傍聴人から審議内容に対する意見が提出された。会議で取り扱いたいと思うが、異議はあるか。

【一同】

異議なし

【上村 麻郁会長】

異議なしと認め、特別傍聴人から提出された意見も会議で取り扱うこととする。

【こども政策課長　齊藤】
　資料１・２に基づき、前回会議で保留していた回答、欠席委員からの意見、特別傍聴人からの意見及びそれらを踏まえた中間見直し案の修正について説明。

【上村 麻郁会長】
　ただいまの説明に対する意見や質問を伺う。
　まず、前回会議からの修正部分のうち、資料２の１１ページ「（５）その他、地域子ども・子育て支援事業の必要量と確保方策の見直し」に係る修正について、意見や質問はあるか。

【前田 ちはる委員】
　③一時預かり事業（幼稚園在園児による利用分）について、現在、一日４５０円、原則一月１万１，３００円を上限額として保育料無償化の対象となっているが、就労時間が月６４時間以上でなければ補助を受けることができない。私自身も１号認定、新２号認定それぞれで利用したが、認定の違いで補助に差があることを痛感している。様々な状況により６４時間以上は働けない家庭もあると思うので、共働きの場合は補助が出る制度になれば、働きやすい家庭も多いと思う。

【こども保育課係長　平岡】
　まず、１号認定は、幼稚園等を利用する方が市民であれば受けられる。新２号認定については、保育所の入所要件と同じく「両親ともに保育に当たれない要件がある方」となっており、本市では就労を理由とする場合、月６４時間以上と定めている。
　預かり保育について、無償化の対象となるには６４時間以上の就労が必要となるが、現在のところ、その条件となっている就労時間を短くする考えはない。
　また、新２号認定を受けずに無償化の対象とする場合、今現在、国からの補助等がなく、市単独での負担となることから、今すぐの対応は難しいと考える。

【上村 麻郁会長】
　教育・保育給付認定は、保護者の就労等の状況により認定されることは保護者も理解されていると思うが、多様化している社会の中で、子育て支援の観点から、保護者のリフレッシュを目的に、一時預かり事業をかなり拡充してきていると思う。財源がなければできないことは理解しているが、市として何かできるところはないか、次期計画に向けて検討いただきたい。
　就労時間によって受けられる補助を制限されると本末転倒になってしまう。お金を捻出するために子どもを預けて働いているのに、その保育料の支払いで消えてしまう家庭も出てきていると思うし、格差も広がる。子どもの最善の利益をどう守るという観点から、親も子も健やかな生活が送れるよう検討して欲しい。

次に、資料２の１３ページの「子どもの医療費等助成の拡充」及び「ヤングケアラーへの支援」について、意見や質問はあるか。

【真鍋 健委員】
「広報・啓発活動により関係機関と連携してヤングケアラーの把握を促進する」とあるが、このヤングケアラーの問題に対して、対象となる家庭を早期発見・早期支援するために、ヤングケアラーの家庭を発見した際の情報収集、他部署との連携の仲介等を主導する主管課は決まっているのか。または発見した部署が主導して他部署との連携を図っているか。
新しい課題であり、主管課を設置している自治体はそう多くないと思うが、習志野市の現状について確認したい。

【子育て支援課長　奥井】
ヤングケアラーの発見については、教育委員会や各サービスを担う部署のほか、民間からの情報提供もある。その情報を管理し、各種支援につなげる主管課を子育て支援課が担っている。今後も、民間も含めた関係各所と連携していく。

【真鍋 健委員】
これまであまり注目されなかったため、１８歳を超えてから、実はヤングケアラーだったと発見されるが、その時にはもう状態が悪いことも結構ある。
想定している情報共有ルート以外の、思いがけないところでの発見もあると思うので、その際の情報の共有方法など、予期しない事態にも備えていただきたい。

【上村 麻郁会長】
かねてよりあった問題だとは思うが、子どもからケアを受けている対象が、身体的あるいは精神的な障がいをもっている両親なのか、高齢な祖父母なのかによって連携する部署も変わってくる。かなり広い範囲での連携が必要となるが、ぜひ検討していただきたい。
次に、資料１の３ページ、会議後に届いた意見について、意見や質問はあるか。

【真鍋 健委員】
「特別な支援」の項目において、「私立園の実態も把握すべきではないか」との意見に対する回答が保育所等訪問支援事業に限定している。あくまで同事業は保護者の申請に基づく、あるいは保護者の権利としてある事業だと思うので、保育施設に入園してから卒園までの長い年月の中での実態把握が必要と考える。３歳児健診や就学支援など、発達に障がいを持っているかの把握ができる機会はあると思うが、３歳児健診では見極めることが難しいため、どのタイミングでの実態把握なのかと考えると、回答がずれていると思うが、いかがか。

【こども保育課主幹　松田】

保育所等訪問支援事業への対応状況について質問が前段にあったため、偏った回答となってしまった。お詫びする。

特別な支援が必要な子どもは、公立・私立に関わらず、乳児・幼児ともに受け入れている中で、保育指導委員会において、保護者の思いも含めて、その子にとってより良い保育環境を検討して職員を配置するほか、本市が契約する臨床心理士と特別支援担当の職員が各施設に出向き、助言等を行っている。

一方で、保育指導委員会で加配がついたものの、成長により支援を減らす部分が必要となったり、逆に支援を増やさなければならない子どももいたりするため、４歳児の１０月頃に再審議という形で、就学に向けて次年度も加配をするのか、または集団の中での育ちに重きを置いて支援を抑えるのか等、保護者に聞き取りしたうえで、その子にとってより良い方法を施設と一緒に考えている。

【こども政策課係長　石橋】

補足させていただくと、この特別傍聴人は前回会議を傍聴しており、黒木委員の質問に対し、公立分の資料しか手元になく、私立分の回答ができなかったことを見て、このような指摘をされたものである。

そのため、会議中に保留した回答のみを記載したものであり、委員ご指摘のとおり、もう少し大きな捉え方をすべきであった。

【真鍋 健委員】

４歳児後半から５歳児前半の時期は、保護者は子どもの進級先や子どもの様々なニーズをどう解決していけばよいか悩み、情報が欲しいところだと思う。

なるべくそのスタートを早くして、保護者と子どものニーズに沿っていくためには、年中後半から年長前半の時期は非常に重要な時期である。今実施している内容をしっかり進める、あるいは拡充していくことについて、検討いただきたい。

【上村 麻郁会長】

付け加えると、福祉は申請主義であり、申請がなければケアがスタートしないことは大前提であるが、アウトリーチの活動をどのようにしていくか。

就学前健診や３歳児健診等の検診がその機会になっているが、非常に判断が難しいケースもある。必ずしも未就学児全てが保育施設等に通っているわけではなく、特に３歳あるいは４歳で初めて集団生活等を経験する幼稚園等の利用者は、発達に関する気付きが遅くなるとその後の支援にも結び付き難くなったりする。指摘もいただいたので幅広く検討いただきたい。

その他に意見や質問はあるか。

【一同】
　なし

【上村 麻郁会長】
　ただいまの協議を振り返ると次のような意見・質問があった。
　まず１点目、一時預かり事業における保育料の補助について、１号認定と２号認定での補助制度の差について意見があり、市から説明があった。
　２点目、ヤングケアラーの問題について、情報の取りまとめや各種支援に繋げる主管課の説明があった。
　３点目、特別傍聴人からの質問に対する回答についての補足説明を受けた。
　見直し案の修正が必要となる意見等はなかったため、習志野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについては、見直し案のとおり確定したいと思うが、異議はあるか。

【一同】
　異議なし

【上村 麻郁会長】
　異議なしと認め、見直し案のとおり確定する。

第５　その他（事務連絡等）
【上村 麻郁会長】
　本日の協議内容が予定よりも早く終了した。折角、委員が一同に会する機会であるため、予定にはないが、各委員に発言いただきたいと思う。
　次期計画は、アフターコロナを見据えた内容を盛り込んだ計画となる。この３年以上にわたるコロナ禍において、それぞれの立場であった苦労や取り組み、または今後の見通しがあれば自由に発言いただき、その内容を次期計画案に盛り込みたいと考える。

【こども政策課長　齊藤】
　今後の予定について説明する。
　まず、前回と本日協議いただいた中間見直し案については、この後２月１日開催の習志野市福祉問題審議会及び２月１５日開催の教育委員会会議にて協議を行い、市役所内部の手続きを経た後、３月下旬を目途に中間見直しを決定する。
　次に、令和５年度の会議予定について、６月頃に令和４年度の実績評価で１回、下半期から令和７年度からの次期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査等に対する意見を伺うための会議を２～３回開催する予定である。

本日は、その来年度に向け、現状を踏まえたご意見等をいただければと思う。

【横山 智子委員】

この会議に参加し、行政・地域・市民で、子ども達のことを色々考えて施策を検討していることがよく分かった。

私はＮＰＯ法人で活動しているが、子ども達が地域で集まって遊ぶことや、皆で何かをすることはとても大事なことだと痛感している。学校では騒いだり、みんなで群れることがなかなか難しいようで、感染対策をしながら細々ではあるが、コロナ禍の３年間も活動を続けてきた中で、学校がとても苦手な子ども達の居場所に対する悩みがすごく増えていると感じる。

本市にも適応指導教室「フレンドあいあい」などの学校に行けない子どもが通う場所があるが、場所が遠くて一人ではなかなか通えず途中でやめてしまい、その後どうしようかと悩まれる事例もあると考える。

市内各地域に、子どもが一人で通える居場所ができたらいいと常々思っているので、今後、検討いただきたい。

【上村 麻郁会長】

子どもの居場所が本当に大切になってきているため、組み込んでいただきたいものである。子ども・子育て支援事業計画は、未就学児や小学生への計画がメインとなっているが、中高生が抱える問題も沢山ある。学校が苦手な子どもの居場所のほかに放課後の居場所がないという問題も出てきているので、ぜひ検討いただきたい。

【福井 りえ委員】

児童委員として、主に子どもに関する手伝いをしているが、コロナ禍で、子育て支援課や学校関係との繋がりがなくなり、子ども達の様子が見えにくかった。

これまで「ブックスタート」や「ふれ合い広場」等の手伝いをしていたが、コロナ禍で全然なくなり、学校関係にも行くことができず、ボランティア活動も全くできなかった。今年度から、少しずつ参加できるようになってきたため、少しずつお手伝いをしていきたい。

【上村 麻郁会長】

コロナ禍で途切れがちだった子ども達との繋がりをどう再構築していくかという課題の提起だと考える。

【三代川 雅信委員】

会議で各委員が真剣に議論している内容を拝聴していく中で、今後、様々な意見を考え、発言していきたい。

【荒井 英治委員】
　学校現場としては、今年度より遠足等の校外学習に行けるようになった。子ども達は行事を通して、集団生活や友達との関わりを作り育つため、非常に大きいところがある。この２年間は制限されて楽しみがなかった。私も校外学習等に極力同行して子ども達の様子を見ていたが、行き先の調べ学習も含め、楽しみとする一日を迎えることが、子ども達にとって、とても大事だと感じたところである。
　また、日常的なことで言えば、まだマスクを着用しなければならず、休み時間を子ども達はその限られた中で、トランプや将棋をしたり、タブレットを見ながら折り紙で難しいものを折ったりと、いろんなことを考えて楽しみを見つけている。
　最後に、特別支援については、通常学級の中での特別な支援が必要な子どもたちに対してことで、我々も切実な問題として常に意識し、研修または事例等を確認しながら、現場としてもしっかり対応している。

【前田 ちはる委員】
　子どもの居場所に関連するが、貧困や虐待の問題もある中で、毎年長い夏休みが来る度、ちゃんと食事を取れない子どもがどれだけいるのかと心配している。
　登校すれば１日１食でも栄養が取れるが、夏休みの４０日間をどう凌いでいるかとすごく心配している。例えば、週１回でも登校日または居場所を作り、給食または仕出し弁当などの食事を提供する。子どもの健康状態や家庭状況、食事を取れているか等の確認が、夏休みの４０日間も空けるのではなく、せめて週１回でもそのような場を確保できればと思う。
　困っている子どもは年々増えていると感じており、私は家に居ることが多いため、子どもの世話が大変で済むが、そうではない子どもがたくさんいるのではないかと心配している。
　また、地域学校協働活動推進員は素晴らしいと思う。地域交流とは観点が少しずれるが、通学路が非常に危険で、いつか交通事故が起きてしまうのではと思いながら登下校を見守ったり、声かけをしている。現在も登下校を見守っているボランティアはいるが人数が少なく、危険性のある道路も多いので、有料ボランティアの活用など、子ども達が安全に登下校できる環境を整えていただきたい。

【福井 りえ委員】
　コロナ禍でも、民生委員達は登下校の見守りを自主的に行ってきた。日々積み重ねてきた見守り活動を、コロナ禍でも継続していることはお伝えしたい。

【桃原 薫委員】
　現在、支援員の確保を目的に放課後児童会の委託化が進んでいる中で、私の子どもが通っている児童会は今のところ民営化されておらず、保育の質も良く、子どもも楽しんで通っている。今後、全児童会を委託化するのか気になるところであるが、

個人的には委託せず、市直営の方が良いと思う。
　また、今年度になってから、コロナ禍で出来なかった色々な行事が復活し始めている。文化ホールで開催した小中音楽会で、他学校の演奏を聞いたり、舞台に立って演奏ができて、子どもにとってとてもいい経験になった。子どもが通っている小学校では、今年度のお別れ音楽会を文化ホールで予定しており、子どもにとって貴重な機会になるが、来年度から文化ホールの建て替えが始まり、今後どうなるか分らない。
　先日、進級先である中学校の説明会に参加した際、合唱コンクールは船橋市のホールを検討しているとあった。やはり「音楽のまち 習志野」と謳っている以上、ホールがただあるだけでなく、貴重な学びの場となってほしい。
　友達同士で声や音を聴き合うことは、認め合う力に繋がると考えており、今年まであった市内に子ども達の学びの機会と場所が、来年以降どうなるか分からない。ＪＲ津田沼駅前の同じ場所での建て替えが検討されているが、今と同じ様な大きい施設で、出来ればパイプオルガンもあり、子ども達が更に使いやすいようになって、子どもの学びが継続できればと思う。

【皆川 直哉委員】
　私の子どもが通っているこども園で、楽しみにしていた鹿野山への園外保育の日程と小学校の就学前健診が被ってしまい、なぜこの様なことが起きるかと疑問を感じたことがあった。幼稚園やこども園、小学校、中学校とそれぞれだけ動いて、それぞれが忙しくて交流がなく、互いの状況が分らなかったのかとも思ったので、もう少し情報共有した方がよいと感じた。また、その情報共有については、各先生個人に任せるというより、行政の方から伝え方や流れを作っていただけると保護者も安心すると思う。

【飯生 和美委員】
　今日、勤務する幼稚園で年中組の体操の保護者参観があった。コロナ禍のおり、当日の朝まで実施できるか心配だったが、天気も良く、久しぶりに幼稚園に来られた保護者も、子ども達も本当に嬉しそうで、いい時間を過ごせた。その中で、兄弟の小学生の子どもが登校拒否になり、自宅でも荒れていてどうしたらいいかと電話相談があった保護者から、小学校の先生方と相談して、今は総合教育センターでお世話になっていると、本当にいい表情で報告があった。
　また、今年度の入園児に先天性の障がいが疑われる子どもがおり、その保護者が毎日一生懸命頑張っても全然改善されないと、子どもの行動にかなり悩まれていたため、ひまわり発達相談センターに依頼して、訪問を心待ちにしていたが、その子が発熱したため、本来であれば先延ばしになるところ、ひまわり発達相談センターの配慮ですぐ再調整いただいて、保護者も本当に喜んでいた。
　関係各所と連携していければ、本当に子ども達の一人一人に合った良い環境で育

んでいけると感じた。

【真鍋 健委員】

１点目は、コロナ禍での第１子について気になっている。第１子の保護者がママ友・パパ友とどのように繋がっているのか気になる。

既にリスタートしているところもあると思うが、情報がないと足が向かない家庭もある。支援者としてできる部分もあるが、やはり同じ悩みを抱える者同士での発散や悩みの共有、解消することが重要なため、そこをどう支えられるか。コロナ禍でその機会が少なくなったが、復活させた時にリスタートできるのか。

今まで制限され、発散できない保護者が背負いこむ形で、さらに難しい状況となっているかもしれないが、支援者としてどう寄り添えるか、気をつけて見ていかなければならない。

もう１点、外国にルーツを持つ子どもの課題を、個人的には、今後に向けて議論していかなければならないと考える。

千葉県の都市部にも外国にルーツを持つ子どもがたくさんいる中で、様々な状況があり、当然その保護者の中でも困っている方がたくさんいると思うので、対象となる方への配慮や異文化間の交流なども、ぜひ積極的に検討していただきたい。

私は別の自治体在住だが、この１０年で国籍のシフトがあり、南米系が減少し、ベトナム・中国系が増加している。しかも、それは団地毎や地域毎にカラーが全然違ったりするため、地域色というところを含め、外国にルーツを持つ子ども、家族に対する支援も検討していかなければならないと思う。

一方で、主婦（夫）の働き方改革もセットで、両天秤にかけながら検討すべきと考える。

【荒井 喜美江委員】

１点目、前回会議において、保育所や小学校等への保育所等訪問支援サービスが話題となったので、参考として勤務するこども園の現状をお伝えする。本園では、現在４名が保育所等訪問支援サービスを利用され、頻度は月２回もしくは保護者から要望があった際、その都度訪問されている状況である。１回につき３０分から１時間程度を子どもの様子を見て、その後、支援担当職員と協議している。後日、報告書が書面で園に届きので、その報告書をもって職員間で共有し、次の支援に生かすために議論している。

２点目は、コロナ禍での保育の状況についてであるが、コロナ禍での保育活動で私たちが一番大切にしていることは、まだ小さい未就学児をお預かりするため、子ども達が安心・安全に過ごせることを大事に考え保育している。子ども達の体調はもちろんのこと、毎日の職員の体調管理もしっかり気をつけ、職員からの感染等にも気を配っている。具体的には、保護者の送迎方法や日頃の保育活動、行事の開催方法に関しても、コロナ禍の中でどのような進め方が良いのかを考え、以前は中止

していた行事も、方法を変更して行っている。その中で、特に情報発信に力を入れている。保護者が園内で直接子どもの様子を見る機会が減ったことから、写真を提示したり、便りに掲載したりと、中に入る機会が少なくなっても、安心して子どもの様子を感じ取れるよう、各施設で力を入れている。コロナだから出来ないではなく、コロナ禍でも、保育者が意図した経験を子ども達ができるよう、意見を出し合いながら進めてきた。今年度になり、少しずつ生活の場が広がってきているが、これからも子ども達が充実した生活を送れるように努める。

【川端 小夜子委員】

保育園で勤務しているが、コロナ禍においては、子ども達の安心・安全を一番大事に、保育を進めてきた。

園舎自体がとても広いため、ずっと窓等を開けて換気し、暖房をつけたままで、寒い時は少し体を動かして暖を取る。保育者はマスクをするが、子どもはマスクをしないため、お互いの表情が見られて、とても楽しそうである。

行事に関しては、コロナが流行りだした頃は、中止を視野に入れながら行事を考え、１年目は運動会や発表会は撮影し、それを保護者に見ていただく形としたが、２年目以降は、保護者に直接見ていただく方が子どもの力になると考え、園庭と園舎が広いので、人数制限や規模縮小、分散をして行事を進めてきた。

今後のコロナと向き合った生活では、３年前に入園した子ども達は、常に大人がマスクをしている状態で顔を合わせているため、職員とも相談し合い、子ども達に表情を伝えきれないところでは一瞬マスクを外すなど、様々なジェスチャーを入れ込みながら、子ども達が表情豊かに育って欲しいという願いを込めて保育している。

個人的ではあるが、一緒に給食を食べることができないのが、とても残念だ。誰かと一緒にご飯を食べる楽しさ、家庭でも孤食が多かったりするため、子ども達だけでも楽しいだろうが、やはり大人と一緒に「おいしいね」と言いながら食べることはすごく大事だと思うが、今それを職員に強制することも難しいので、少し離れたところで食べたりする形で、少しずつ進めている。

また、先ほどもあった特別な支援に対してだが、飯生委員から学校関連の話もあったが、保育園の方でも、市のいろんな部署と連携をとりながら、保護者に負担がかからない保育ができるか、今職員と話を進めているところであり、市の方とも相談させていただきながら、子ども達が健やかに成長していく姿を見守りたい。

【黒木 秀一委員】

学校の話や保育園の先生方の思い等を色々聞くことができて、すごく安心している。コロナ禍においても、すごく工夫していただき、子ども同士の直接的な関わりはなくとも、製作した作品を通してだったり、また、劇活動では、自分の子どもはすごく楽しそうに、家ではずっとその話をして、自主練でセリフや動きの練習をずっとしていて、本当に友達と一緒に活動をすることは、子どもの成長にも繋がるし、

単純に楽しいという気持ちが大きいのだなと感じている。
　ただ、個人的に気になることは、コロナ禍でいろいろ工夫されているということは、それだけ先生方が時間をかけていると思うので、子どもに関わる親もだが、職員が安心して働けて、負担感がなく子どもと関わることができれば、間接的ではあるが、子どものために繋がっていくのではないかと思う。

【江口 麻衣子委員】
　先ほどあった子どもの居場所について、小学校で放課後子供教室が開始されてきた。話を聞く限りでは、すごく人気で、スタッフもとても良くしてくださっていて、例えば、季節ごとに、ハロウィン、クリスマス、バレンタインデーでは工作もあるようで、夏休みには縁日ごっこ、更に２ヶ月に１回、千葉Ｊｅｔ’ｓの選手がバスケット教室を開いており、とても充実した場所だと聞いている。１年でも早く、市内の全小学校に放課後子供教室ができることを願っている。
　また、ＰＴＡに関する話になるが、コロナ禍の１年目、２年目はほとんどの学校で活動ができず、様々なことを縮小・削減してきた。世の中的にも教育現場的にも、コロナ前に戻ろうという動きがあるが、ＰＴＡ活動をしなかった期間が長かったことで一般会員からも、なくても成り立つのではという空気がどの学校にもある。ＰＴＡに限ってはコロナ前の状況に戻ることは、ないかもしれないと感じている。
　残念ではあるが、時代的に仕方がない部分もあるのかとも思う。

【上村 麻郁会長】
　様々な話を伺えてよかった。
　個人的を言えば、私も他市になるがＰＴＡ役員をしており、コロナ禍で本当に活動ができないが、自分が関わったことで、学校とＰＴＡがこんなに繋がっているのだと分かった。現在、選択制となっている学校が増えているが、その存在の大切さが伝わっていくと良いと思っている。
　私から１点、保育者の養成校で教諭をしており、習志野市の公立・私立保育園、幼稚園、こども園には実習という形でお世話になっている。その立場から話をすると、コロナ流行の１年目は実習に出られない、実習に出ないまま学内演習で代替し、現場を知らないまま現場に出るという学生が一定数いた。ただ本学は、基本的に受け入れていただける園にお願いする形で、１回も現場に行かないことはなかった。２年目、３年目は、実習が始まってからの中断はあったが、基本的に受け入れていただき、また丁寧にご指導いただいており、感謝している。
　ただし、来年度の新入生達は、高校生活の３年間はマスク生活をしており、完全に学ぶスタイルが変わった学生となる。
　今も授業では、教室の収容人数が大分制限されており、演習授業、グループワークも少し制限して行っているため、考える機会や発言する機会が、今現場で働いている保育者・教職員に比べて、非常に少ない。

この状態が「常態」として学んできた学生達が社会に出て、アフターコロナの中で、特に対人援助職としてどうやって育っていくのかというところで、私達はすごく心配しているところであると同時に、川端委員からも話があったが、子どもからすると大人の表情が見えない現状にあって、学生達も表情を見せることがない。そのため、マスクを取って保育していい、教育していいとなった時、大丈夫なのかとすごく心配している。子どもだけでは子どもは育たないので、保護者、地域の方、そして保育者の皆で連携をとり、育てていくところなので、我々、養成校もきちんと今後のことを考えていかなければと、皆様の話を聞きながら強く感じた。

本当に色々な意見があった。ニーズ調査となると、ある題目に対してどう回答を得るかとなる。ただいまのフリーアンサーで、次期計画のキーになるところが出たかと思う。ぜひ、活用いただきたい。